

市民

力

特集 三豊を支える

防災

防災・減災の基本 「自助・共助・公助」

近年、地震や集中豪雨、台風などにより各地で甚大な被害が起こっています。地球温暖化に伴う異常気象、南海トラフを震源とする大規模地震の発生予想を踏まえ、危機管理体制の強化が求められています。

災害は、いつでもどこで発生するかわかりません。地震や津波、台風、集中豪雨などの自然災害は、私たち人間の力では食い止めることができません。しかし、災害による被害は、事前の防災・減災対策によって減らすことができます。行政による防災の取り組み「公助」はもちろんですが、自分の身は自分で



▲平成28年1月稼働に向け、建設中の危機管理センター

守る「自助」、近隣が互いに助け合って地域を守る「共助」こそが、災害による被害を少なくするための大きな力となります。

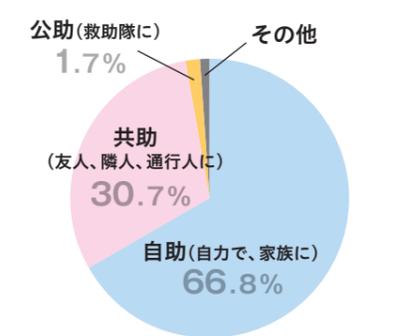
危機管理課を新設 災害に強いまちへ

市では、4月に危機管理課を市役所2階に新設。地域防災計画に基づく災害予防・応急対策・復旧計画の整備や防災意識の啓発、防災士の養成、自主防災組織

の結成推進、消防団の組織強化に取り組みます。また、災害発生時の速やかな初動体制を確保し、情報収集や指揮系統の一元化により被害の最小化を図るため、現在、市役所東隣に危機管理センターを建設しています。



図1 阪神淡路大震災で生き埋めになった人たちが、誰によって救出されたか？



出典：日本火災学会「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」

自分を守り 隣人を救う

図1は、阪神淡路大震災時に生き埋めや閉じ込められた人の救助を誰が行ったかを表したものです。「自助」による救助は約67%、「共助」が約31%、消防や自衛隊などによる「公助」はわずか1.7%でした。いかに自助が重要か、いかに近所での共助が頼りになるかが分かります。

市内では、いざという時に地域で災害に備えるとともに、発生時には被害を最小限に抑えるため、さまざまなところで共助の輪が広がっています。



1,077人
団員数

県内で2番目の団員数を誇る市消防団は「自らの地域は自らで守る」という精神で、地域防災力の中核を担っています。第一線で活動する皆さん

地域を拠点に 防災活動の要を担う 最強の 市民ボランティア集団

は、日頃それぞれに仕事をしながら、災害時の消防・防災活動や平常時の訓練などに取り組んでいます。団長を務める藤川淳一さんは「団員は、その地域に住んでいる人や働いている人が、大切な家族や仲間、まちを自分たちの手で守りたい」という思いで活動し

**震度7
最高津波水位 3.3 m
避難者数 18,400人**

南海トラフを震源とする最大クラスの地震が発生した場合、甚大な被害が出ると予想されています。市内では、大切な生命と生まれ育ったこの地を守ろうと、市民力による「自助」「共助」の取り組みが行われており、大きな防災力となっています。今月は、災害に強いまちづくりを目指して取り組む人たちを紹介します。

共助 自主 防災組織

生活環境を
共有する住民同士が
相互に協力し合う
防災チーム

自主防災の組織率
約6割

自主防災組織は「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神、連帯感のもと、自主的に結成する組織で、被害を予防・軽減するための活動を行っています。現在、市内には自治会単位で320団体、校区単位や連合型で16団体結成されています。

高まる危機意識

仁尾町の曾保地区では平成26年9月、地区内6自治会からなる自主防災組織を結成しました。会長の吉田剛久さんは



防災訓練には住民約230人が参加。子どもたちも楽しく防災の大切さを学びました

「消防団イコール消防活動」というイメージを持っている人が多いと思いますが、地震や台風、豪雨などの災害時にも駆けつけます。また、平常時には休日や夜間に集まり、訓練をしています。

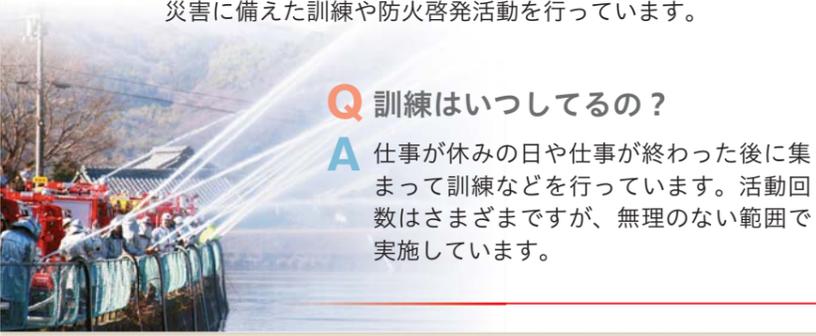
速に行動できるかが重要です。だからこそ全員が日頃の訓練に励んでいるんです」と力強く語ります。

「消防団は『地域密着力』『即時対応力』『動員力』を

消防団のこと、教えて!

Q 消防署との違いって何?
A 消防署の職員は消防業務に専念する常勤の公務員です。消防団員は各自の仕事を持ちながら災害時に活動する非常勤特別職の公務員です。

Q 消防団ってどんなことするの?
A 消火活動のほか、災害時の救助、警戒巡視、避難誘導などにあたります。また、平常時は、地震や風水害など多様化する災害に備えた訓練や防火啓発活動を行っています。



Q 訓練はいつしてるの?
A 仕事が休みの日や仕事が終わった後に集まって訓練などを行っています。活動回数はさまざまですが、無理のない範囲で実施しています。



三豊市消防団 団長 藤川 淳一さん

兼ね備えた組織です。団員は市内に住んでいる人、勤務している人などで、地域の事情に精通しているほか、各種イベントに参加するなど、地域とのつながりを大切にしています。また、日頃の訓練により、災害対応の技術と知識も身に付けています。そして、団員の数。大災害が起きた時は、全員が動きますが、皆さん自分の仕事がある

るので、全ての災害に参加することはできません。しかし、参加できない人がいても団員同士で支え合いながら活動しています。やはり、いざという時の数の力は大きいですね」常に危険と隣り合わせにありながらも、強い郷土愛のもと一致団結し、今日も地域の安全を守っています。

女性消防団員を募集中!



- 募集資格**
市内に在住または勤務する18歳以上の健康な人
- 活動内容**
 - ・基礎訓練、研修などの受講
 - ・防火防災啓発活動(市民および企業への啓発活動)
 - ・保育所、幼稚園、小学校、老人会などでの防火研修会
 - ・各地区で開催される防災訓練への参加
 - ・大規模災害時の被災者への対応(避難所運営、応急救護活動)
- ※火災時の消火活動は行いません。
- 応募方法**
危機管理課および各支所にある応募用紙に必要事項を記入のうえ、危機管理課まで提出してください。女性ならではの視点を生かし、地域のために活動してみませんか。意欲のある人をお待ちしています!

化の必要性を訴えてくれ、皆さんの理解を得ることができました」と結成までの道のりを話してくれました。

互いの連帯感を効果的に生かす

自治会単位の組織が多い中、曾保地区では校区単位での結成を目指しました。

「曾保地区は山に囲まれ、災害が発生した場合、孤立しやすいんです。また、消防団や小学校、幼稚園といった組織の横の連携も図られ、円滑に対応できるという点から、校区単位で作ることになりました。毎日の生活でお互いを知っていただければ連帯感がわいてきます。それを組織活動に効果的に生かすことで、大きな力となりますからね」

楽しく学んで災害に備える

「曾保地区は、農業や漁業に携わっている人が多いんです。家庭に発電機や



▶曾保地区自主防災組織連合会の吉田剛久会長(中央)、事務局の吉田誉範さん(左)組橋盟弘さん(右)

伝えることも大切なことだと思えます」

家族総出の防災訓練に

「今後は、耐震化を呼びかけるチラシを各家庭に配ったり、災害時に援護が必要な人の把握に努めたりしたいと思います。」

2月には初めて防災訓練を実施。避難所開設や初期消火、応急手当訓練などのほか、消防車の展示コーナーやゆるキャラのみとよんに来てもらうなど、さまざまな企画を用意しました。「子どもの頃から防災への意識を持ってもらうため、楽しみながら防災の輪を広げようと工夫しました。子から親へと備えの重要性を



▲地域の安全安心を守る消防団員

三豊市防災士会が設立されました。

防災士は、防災の基本的な知識と技術を身につけ、災害時には行政機関やボランティアと連携し、住民の避難や救助、避難所の運営を行います。また、来たる災害に備え、防災知識の普及や啓発、避難訓練の企画・実施など、地域で想定される災害をイメージし、さまざまな防災活動を行うことが期待されています。

市では、防災士資格取得のための助成制度を設け、

「防災・減災の意識は、非常に高まってきていると感じます」こう語るのは、市防災士会の初代会長に就任した大平國博さん。

現在116人の防災士が加入し、自らの専門的知識



三豊市防災士会
会長 大平 國博さん

地域に根差した 防災リーダーを育成

平成27年2月、防災士同士のネットワークづくりと知識・技術の向上を目的に、三豊市防災士会が設立されました。

平成25年度から防災士の養成に取り組んでいます。2年目終了時点で91人が市の制度を利用して資格を取得。地域防災力の強化を図っています。



防災力の強化を図る 地域社会の防災リーダー

を最大限に生かして、地域の防災力向上につなげようと、さまざまな活動を計画しています。

「まず取り組むことは、防災知識や技術の向上と防災士同士のネットワークの強化です。そして、次のステップとして、それぞれの地域の実情に応じた自主防災組織の結成促進や活動の活性化を支援していくことです。

一人で資格を取得するのは勇気がいるかもしれませんが、知り合いと一緒に受けるなど、男女を問わず、たくさんの方に防災士の資格を取ってもらい、みんなで災害に強いまち・三豊を築いていきたいですね」

災害時に被害を最小限に抑え、私たち自身の生命と地域を守るためには、日頃の備えや地域の皆さんの助け合いが大切です。一人ひとりができる範囲で行動に移していくことが、自分や愛する人を守ることに繋がります。

防災士養成講座 開催

- 対象** 市内に在住または勤務する 20 歳以上の人
- 日時** 8月1日(土) 午前9時～午後6時30分
2日(日) 午前9時～午後5時30分
- 会場** 高瀬町農村環境改善センター
- 内容** 防災に関する知識を学習するほか、避難所の開設と運営など実践的な演習も行います。講座の最後に資格取得試験を実施します。
- 定員** 50人(先着順)
- 参加料** 10,000円(教材費など)
- 申し込み方法** 危機管理課または各支所にある申込書に参加費を添えて、危機管理課まで提出してください。
- 申し込み期間** 5月1日(金)～6月30日(火)



輝く女性防災士☆

女性だからこそできること

建設業を営む夫と一緒に資格を取りました。

避難所ではトイレや授乳など、プライバシー面での配慮が必要になります。また、日頃の備えには女性のきめ細かな配慮や知恵が必要不可欠だと感じています。女性だからこそできることを考え、どんどん発信していきたいです。

女性のネットワークの強化も図っていききたいので、若い女性も含め、多くの皆さんに取得してもらいたいですね。



白川 育代さん

ここでチェック!

家庭での防災対策できていますか?

新設の危機管理課で防災指導員を務める
圖子幸男さんが突撃調査!



キッチンには電子レンジなど家電製品がたくさん並んでいますよね。地震で落ちてきたら大変です! 滑り止めシートなどを下に引くといいですよ。



ガラガラ

強い地震が起きると食器棚から食器が飛び出します! 扉開放防止器具を取り付けるほか、ガラスには飛散防止フィルムを貼ることをお勧めします。



火災の元!!
タコ足配線や、コードを束ねて使用するはやめましょう。



落下の危険大!
高い所に物を置くのはやめましょう。



無防備になる寝室は、毎日、長時間 過ごすところ。チェックは万全に!

寝ている時は無防備なので、特に注意が必要です。家具などが寝ている人に直撃しないか、倒れた家具が出入り口をふさいでしまわないかも確認しましょう。靴やスリッパ、ライト、笛などを枕元に置くのも忘れずに。



家族が家で過ごす時間は長いので、災害発生時に家にいる可能性はとても高いといえます。キッチンやリビングなどには、使いやすさや便利さを求めて、いろいろな物を置いてしまいがち。しかし、そこに危険は潜んでいます。大切な家族を守るために、自分でできる簡単な防災点検をしてみましょう。